

# 自分だけの金字塔

新型コロナウイルス感染症の予防策の一つとして、該当症状がある者には自宅休養が当たり前になった現在、果たして「皆出席(賞)」には意味があるのだろうかという声が上がっています。皆さんはどう思いますか。簡単には結論が出ない話題である気がしますね。

皆出席は「結果」です。「目的」ではありません。その証拠に、学校という場に通い始めた六歳になる年から、「よし、皆出席を狙うぞ」と思っていた人は一人もいないはずです。毎日毎日学校に通っていたら、ある日突然「今まで休んでいないなあ」と気付き、やがて「このまま欠席なしで頑張ってみようかなあ」と目標が生まれ、最終的に「皆出席を狙おう」というこだわりに変化していきます。

心配するのは、最後のこだわりの部分です。これが強くなりすぎると、「結果≡目的」となり、「それって本当に皆出席になるの?」と周りの人たちを疑心暗鬼に陥らせてしまうことも生まれます。

以前あった例です。三年の三学期に入るまで皆出席が続いていた生徒が、その日体調が悪いのに登校し、朝の会だけ参加して帰宅したということがありました。校長はそれを出席(早退)にしました。今の私でもそうします。しかし、しつくりこないというのが正直なところですよ。

小中学校における年間に出席しなければならぬ日数は、校種や学年、出席停止の日数によって違いがありますが、年間二〇〇日程度です。そうだと仮定すると、九年間で一八〇〇日出席しなければならぬ日があります。皆出席であれば、出席率はもちろん一〇〇パーセントですが、一日欠席すると出席率は九九・九パーセントとなります。

皆さんはどう思いますか、出席率一〇〇パーセントの生徒と、九九・九パーセントの生徒には、とてつもなく大きな差がありますか。オリンピックのスピードスケート競技のように、メダルの色を決める必要があるなら、小数点以下の数字が大きな意味をもつでしょうが、出席に関しては、どちらの結果も賞賛すべきことではないでしょう。

二日欠席であっても三日欠席であっても同じです。一日も休まないことだけが健康の証、努力の跡ではないと私は思います。皆出席とは、自分だけの金字塔と考えると、将来の自信とすればよいような気がします。

私のメッセージは、令和二年四月十六日から毎日続いています。コロナで休校になり、何とかして生徒に言葉をかけたいと思って始めたメッセージです。生徒たちに届けば、それでいいと思っています。(担任が話す朝や帰りの会の話と同じです。)  
「よく毎日続きますね」と言われますが、私には「声をかけたい」という思いがあるだけで、こだわりはないですからね。肩ひじ張らずに、好きなことを書いているから続くのだと思います。

(二月二十八日記)